中日同形語“牺牲”と「犠牲」についての比較研究

呉 夫 迎

要旨　中国語、日本語には同形語が多く存在しており、その中には語義や用法などにおいて差異が見られる語もある。本稿では中国語の“牺牲”と日本語の「犠牲」について、語義的特徴、文法的特徴、含蓄的特徴などの視点からその異同を考察する。

キーワード　“牺牲”「犠牲」　語義的特徴　文法的特徴　含蓄的特徴

关于中日同形词“牺牲”和「犠牲」的考察

摘要　汉语、日语中存在大量的同形词，有些同形词在语义、用法等方面存在差异。本文就“牺牲”和「犠牲」一对词，从语义特征、语法特征、含蓄特征等角度考察其异同。

关键词　“牺牲”「犠牲」　语义特征　语法特征　含蓄特征

1．序論

国広哲弥（1982）は意義素を語義的特徴、文法的特徴、含蓄的特徴に大別するとともに、語義の研究方法及び視点を提出した。その後、中日同形語の研究をめぐっては多くの先賢が研究成果を多数発表し、研究視点も様々である。大河内康憲（1992）は、全体的に見れば中日同形語が日本語においては狭い語義を持ち抽象的意義に傾く傾向があり、また感情的色彩においても差異を見せていると考え、その上、状態を表す10組の中日同形語を選びその

語義と用法の比較研究をした。宮島達夫（1993）は中日同形語の文体差に着眼し、その異同を分析した。翟東娜（2000）は中日同形語のプラスイメージ（中国語でいう“褒义”）やマイナスイメージ（中国語でいう“贬义”）の異同及びそれに関わる社会文化的要素を主に考察した。秦礼君（2016）は中日語彙の比較方法と比較視点を論じ、中日語彙の対比研究を語義や文体や感情的色彩などの視点から行えばよいと言及した。

本稿は学者先賢の研究を踏まえて語義的特徴、文法的特徴、含蓄的特徴などの視点から“牺牲”と「犠牲」の異同を考察してみることにする。

2．研究方法

本研究は主に二つのコーパスと 2 冊の辞書を利用して行うことにした。コーパスは現代漢語コーパス（現代漢語語料庫）と KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』中納言であり、辞書は《现代汉语规范词典》第二版と『明鏡国語辞典』第二版である。

3．“牺牲”と「犠牲」の対比分析

3.1　語義的特徴の異同

“牺牲”：①㊀古代指为祭祀而宰杀的牲畜 ②㊁为正义舍弃自己的生命◇为民族独立和解放而～ ③㊁泛指（为某人、某事）付出代价或受到损害◇～个人利益。⇒义项②参见 412 页“赴死”的提示。

（《现代汉语规范词典》第二版 p. 1401）

「犠牲」：【名】①ある目的を達成するために、大切なものを引き換えにすること。「青春を～にして研究に打ち込む」②天災・人災などのために死んだり傷ついたりすること。「戦争の～と／になる」「～者」▽もと神・精霊などに供えるいけにえの意。（『明鏡国語辞典』第二版 p. 414）

以上の解説から分かるように、“牺牲”は《现代汉语规范词典》第二版に語義区分が 3 項あるのに対して「犠牲」は『明鏡国語辞典』第二版に語義区

分が2項と、語源（▽もと）がある。以下ではこの二冊の辞書の解説を引用し、2語の語義の異同を対比する。

1）同じ語義

まず、「犠牲」の語源「▽もと神・精霊などに供えるいけにえの意」は『明鏡国語辞典』第二版に一つの語義区分として羅列していないものの、その語義は“牺牲”の語義区分①“古代指为祭祀而宰杀的牲畜”（いけにえ）と同じである。実例で言えば、

(1) “**牺牲**玉帛，弗敢加也，必以信”（現代訳：牛、羊、玉器と絹織物は私が数字を偽ることなく、必ず誠実に取り扱う）（《曹刿论战》左丘明）

(2) 野牛が日本にいたかどうかは疑問で、家畜としての牛を**犠牲**に供することは、経済的負担が大きかった。

（『狂言』戸井田道三、1997年、平凡社）

次に、“牺牲”の語義区分③“泛指（为某人、某事）付出代价或受到损害”（ある人あるいはある事のために代償を払ったり損害を受けたりすること）は「犠牲」の語義区分①「ある目的を達成するために、大切なものを引き換えにすること」（为达到某个目的，以重要的东西相交换）と意味がほぼ同じと言えよう。実例で言えば、

(3) 既然姐姐为我们**牺牲**了美好的青春时光，我们则没有理由不以相应的方式报答她。（《北京晚报》1992年10月19日）

(4) この人達は、貴重な土曜日の楽しみを**犠牲**にしようとしている。それほど、私達の平和は不安なのか。

（『「文藝春秋」にみる昭和史』小林秀雄、1988年、文藝春秋）

2）異なる語義

“牺牲”の語義区分②は「犠牲」の語義区分②と異なる。“牺牲”の語義区分②“为正义舍弃自己的生命”（正義のために自分の命を捨てる）は語義が厳粛で堂々としており、褒め言葉（中国語でいう“褒义词”）なのである。語義にはある程度の含蓄的特徴が含まれている[1)]。一方、「犠牲」の語義区分

1）含蓄的特徴については後程詳述する。

②「天災・人災などのために死んだり傷ついたりすること」は“遭遇天灾人祸而伤亡”を意味し、中性語（中国語でいう“中性词”）なのである。実例で言えば、

(5) 一月三十日，我边防战士在龙州县水口公社板斗地区进行正常巡逻，三次遭到越南武装人员开炮开枪射击，战士苏马就等同志中弹**牺牲**了。（《解放军报》1979年 3 月 6 日）

(6) 6 月22日，总政治部领导会见了在平息反革命暴乱中**牺牲**的十位烈士的亲属。（《解放军报》1989年 8 月 6 日）

以上の例から分かるように、(5) では兵士蘇馬就などの同志は祖国の国土安全を守るために命を捧げたのである。(6) では10名の烈士は反革命的な武力暴動を治める中で命を落としたのである。どれも正義のためで、肯定または賞賛はされるべきものなので、中性語に当たる“死”あるいは“死亡”の代わりに“牺牲”という語を用いたわけである。

以下の 3 例は地震に関する震災記事である。

(7) 千九百七十六年の中国・唐山地震は二十四万人の**犠牲**を出し二十世紀以降最大の地震とされる。（中国語訳：1976年，中国唐山大地震中**死亡**24万人，是20世纪最大的一次地震。）（『新潟日報』2005年 1 月26日）

(8) この地震により、福岡市内で女性が倒れたブロック塀の下敷きとなって**死亡**し、九州の各県警によると、福岡、佐賀、長崎 3 県で二十人が重傷、百七十六人が軽傷を負った。（『読売新聞』2005年 3 月21日）

(9) 在一九七六年七月二十八日发生的唐山大地震中，总共**死亡**二十四万二千多人，重伤十六万四千多人。（《人民日报》1979年11月23日）

以上の例から分かるように、震災の死傷状況を伝えるのに使用する語は、中国語では“牺牲”ではなく、“死亡”であるのに対して、日本語では「死亡」も「犠牲」も使用されている。この場合の「犠牲」はすなわち「犠牲者」の意味であり中国語の“死亡人员”に当たる。地震における「犠牲」はただ地震に遭って死亡したということであり、“为正义舍弃自己的生命”とは明らかに異なっている。

3.2　文法的特徴の異同

以下のように、二者の文法的特徴について、文成分とコロケーションに焦点を当てて実例を用いて考察していく。

3.2.1　文成分における異同

この節では文成分、すなわち主語、述語、目的語、連体修飾語、補語をそれぞれ＿、＿、～、（　）、〈　〉をつけて示すことにする。各例文では論述の焦点となる“牺牲”と「犠牲」は“**牺牲**”と「**犠牲**」のように太字を用いることにする。

1）　同じ点

中国語では動詞、形容詞は述語、連体修飾語としてはもちろんのこと、主語と目的語としても用いられる[2)]。従って、“牺牲”は語義区分②と③が動詞であるにもかかわらず主語、述語、目的語、連体修飾語の位置にあってもよい。一方、日本語では、名詞は主語、目的語、連体修飾語として用いられるほか、「名詞＋だ／である」という形で述語としても用いられる。これにより、名詞である「犠牲」は主語、述語、目的語、連体修飾語として用いられるわけである。次の用例を見てみよう。

①主語として

(10)　（卡杰琳娜的）**牺牲**是悲剧；刘兰芝、焦仲卿同归于尽也是悲剧，而关汉卿和朱廉秀无论是分离的结尾或团聚的结尾也都是悲剧。

（《花雨集》马少波、1960年、中国戏剧出版社）

(11)　（烈士的）**牺牲**，激起了人们更大的反帝的仇恨……。

（《邓中夏传》魏巍、钱小惠、1981年、人民出版社）

(12)　撤収が長引けば長引くほど、**犠牲**は大きくなり、その反動は激烈になるだろう。　（『日本は悪くない』下村治、1987年、ネスコ）

(13)　（そんな）**犠牲**は、およそ考えの中になかった。

（『水滸伝』北方謙三、2004年、集英社）

②述語として

2）詳しくは朱德熙等《関与動詞形容詞“名物化”問題》《北京大学学報》1961年を参照。

(14) 排演过程中，南斯拉夫学生娜达是此剧的主角，台词较多，为了全部背出来，她牺牲了多少业余时间！ （《文汇报》1979年 5 月15日）

(15) 他和全团干部战士宁可牺牲自己，也要保住大堤，唯一的要求就是请政委放心，赶快离开。 （《人民日报》1991年 9 月 4 日）

(16) 黙って工場を閉めて去るよりも、はるかに高価な犠牲だった。

（『「翻訳」してみたいあなたに』徳岡孝夫、2002年、清流出版）

(17) 誰にも強制されない犠牲、相手に対する愛から出る自己犠牲は、犠牲ではなく献身とよばれる

（『ただいま奇跡のまっさいちゅう』伊藤暢彦、1997年、小学館）

③目的語として

(18) 这个故事说明，要使人们相信真理，抛弃偏见，不是一件简单的事，为此甚至还要作出某种牺牲。

（《管理人才学》硕晶、1987年、河南人民出版社）

(19) 其三，人们抱着良好的愿望，从事一种正义的事业，但是由于主观认识违背客观规律，结果受到客观规律的惩罚，招致事业的失败，造成（很大的）牺牲。（《文艺理论》郑国铨、1981年、中国人民大学出版社）

(20) この託児所は原爆で倒壊し、大勢の犠牲を出しています。

（『鳩の使いの旅』黒川万千代、1988年、新日本出版社）

(21) 犠牲をはらわずに社会主義を建設することはできない。

（『勝利と悲劇』ドミトリー・ヴォルコゴーノフ著、
生田真司訳、1992年、朝日新聞社）

④連体修飾語として

(22) （山路上躺着牺牲的）担架队员。

（《梅岭星火》绍武、会林、1978年、中国电影出版社）

(23) 6 月22日，总政治部领导会见了（在平息反革命暴乱中牺牲的）（十位烈士的）亲属。 （《解放军报》1989年 8 月 6 日）

(24) （対 COWIN 戦線の犠牲の）上に静寂を許されている。

（『電脳天使』彩院忍、1998年、朝日ソノラマ）

(25) 本章では、ヨーロッパにおける「（犠牲の）論理」、とりわけ戦争に

関わる「（**犠牲**の）論理」をもう少し見ていきます。

（『国家と犠牲』高橋哲哉、2005年、日本放送出版協会）

２） 異なる点

“牺牲”は補語として使うのが稀であるのに対して、「犠牲」は補語として使うことが多く、よく「～と／になる（する）」といった形で現れる[3)]。例えば、

(26) 神は、遠い昔罪に堕ちた人間を贖われるために、キリストを〈**犠牲**〉としてこの世に使わされた。（『妖精物語について』J. R. R. トールキン著、猪熊葉子訳、2003年、評論社）

(27) これに対してドイツのメッサーシュミット戦闘機は航続距離と運動性を〈**犠牲**〉にして三百時間で習熟できるように設計されていた。

（『組織の盛衰』堺屋太一、1993年、PHP研究所）

3.2.2 コロケーションから見る異同

現代漢語コーパス（現代漢語語料庫）で“牺牲”を検索したところ、625件が見つかった。また、KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）』中納言で「犠牲」を検索したところ、2449件が見つかった。この検索結果に基づいて、同時に「は」「の」「で」「に」「と」などの日本語の機能語と、“的”“了”などの中国語の虚詞（機能語）を無視したうえで、二者と結びつく内容語だけに着眼し、その内容語が主語か目的語か修飾語かという三つの視点から実例を通して対比分析していくことにする。

１）内容語が主語の場合

コーパスによる実例統計から分かるように、“牺牲”と結びつき、かつ、主語として用いられる内容語はほとんど人間あるいは団体である。これに対し、「犠牲」と結びつく、かつ、主語として用いられる内容語は人間や団体のほか、災難などもある。この場合の内容語は、“牺牲”の語義区分②③と

3）「学校文法」の観点によると、「名詞＋と／になる（する）」にある名詞は補語と見なされている。現代の文法研究ではこの観点に対し批判的な態度を持っている者が多いようで、「～と／になる（する）」は述語として使用可能な動詞と見てよかろう。

「犠牲」の語義区分①②の解説から大体うかがえる。具体的に、語義区分②“为正义舍弃自己的生命”と語義区分③“泛指（为某人、某事）付出代价或受到损害”を見れば、自然に““谁”为正义舍弃自己的生命？”（誰が正義のために自分の命を捨てるのか）と““谁”（为某人、某事）付出代价或受到损害？”（誰が（ある人、ある事のために）代償を払ったり損害を受けたりするのか）とが浮かぶわけである。この場合の“谁”は自然に人間あるいは団体に繋がる。このように、「犠牲」の語義区分①②の解説からも同じような分析が得られる。異なるところは、「犠牲」の場合、主語が戦争などの災難であってもいい点である。これは以下の実例 (33) からうかがえる。「犠牲をもたらす」（“带来伤亡”）の主語は「日本の侵略戦争」となる。ほかの実例を見てみよう（下線部を参照）。

(28) 排演过程中，南斯拉夫学生娜达是此剧的主角，台词较多，为了全部背出来，她**牺牲**了多少业余时间！ （《文汇报》1979年 5 月15日）

(29) 你**牺牲**后，他也很难受。
（《渔家女》于良志、宋瑞斌、1989年、百花文艺出版社）

(30) 在平息反革命暴乱过程中，戒严部队官兵被打伤6000余人，**牺牲**数十人，军车被烧毁1000多辆。 （《解放军报》1989年 8 月 6 日）

以上の下線部の内容語は (28) と (29) は人間で (30) は団体である。

(31) 夫は仕事のために家庭を**犠牲**にし、妻は家庭のために自分を**犠牲**にする。
（『会社は好きなことをするためにある』齊藤勇、2003年、中経出版）

(32) アメリカの戦争であっても日本が**犠牲**になるのである。
（『検証・石原政権待望論』実著者不明、2002年、現代書館）

(33) 日本の侵略戦争は、医療関係者に大きな**犠牲**をもたらした。
（『有事法制とアメリカの戦争』神原元、2003年、新日本出版社）

(34) 千九百七十六年の中国・唐山地震は二十四万人の**犠牲**を出し二十世紀以降最大の地震とされる。 （『新潟日報』2005年）

以上の下線部の内容語は (31) は人間、(32) は団体、(33) と (34) は災難（戦争、地震）である。

2）内容語が目的語の場合

コーパスによる実例統計から分かるように、“牺牲”と結びつく、かつ、目的語として用いられる内容語は“生命”、“时间”、“自己”／“自我”／“个人”、“利益”、“休息”、“幸福”、“一切”などが多いのに対し、「犠牲」と結びつく、かつ、目的語として用いられる内容語は「一切」／「すべて」、「自ら」／「自分」／「自己」、「命」／「生命」／「人生」、「自由」、「幸せ」、「利益」などが多い。比較して分かるように、二者の内容語はほぼ同じである。すなわち、この場合の内容語は、“牺牲”の語義区分③“(为某人、某事）付出代价或受到损害”と「犠牲」の語義区分①「ある目的を達成するために、大切なものを引き換えにすること」とが具現化したものであると言えよう。例えば(下線部を参照)、

(35)　更有不少人，在执行日常巡逻中，遭到敌人的伏击，**牺牲**了生命。

（《邓中夏传》魏巍、钱小惠、1981年、人民出版社）

(36)　因此，人应该为它而**牺牲**一切。

（《政治学体系》周绍张、1935年10月20日、辛垦书店）

(37)　どうあがいても私たち人間は他の生命を**犠牲**にして生きていくべく宿命づけられている。

（『ジャングルで学んだこと』山極寿一、1999年、フレーベル館）

(38)　見るためにだけ、書くためにだけ生きて、他の一切を**犠牲**にするごとき詩人のあり方になんとか反抗しようとした。

（『時の扉』辻邦生、1988年、文藝春秋）

3）内容語が修飾語の場合

見つかった“牺牲”の用例625件をさらに統計分析し、“牺牲”と結びつく、かつ、修飾語として用いられる内容語を表1にまとめた。

表1から分かるように、修飾語として用いられる内容語は文成分で連用修飾語と連体修飾語に分けることができる。連用修飾語として用いられる内容語には“壮烈”“英勇”“光荣”“为国”“宁可”などがあり、連体修飾語として用いられる内容語には“重大（的)”“伟大（的)”“巨大（的)”“必要的”“无谓的”などがある。例えば、

表 1　“牺牲”と結びつく、かつ、修飾語として用いられる内容語

見出し語	件数	比率	見出し語	件数	比率
壮烈（牺牲）	24	3.84％	巨大(的)（牺牲）	3	0.48％
英勇（牺牲）	13	2.08％	更大的（牺牲）	3	0.48％
光荣（牺牲）	6	0.96％	必要的（牺牲）	3	0.48％
伟大(的)（牺牲）	4	0.64％	无谓的（牺牲）	2	0.32％
重大(的)（牺牲）	5	0.80％	宁可（牺牲）	2	0.32％
为国（牺牲）	5	0.80％	自我（牺牲）*	25	4.00％

*“自我（牺牲）”の“自我”は一見して“牺牲”の修飾語のように見えるが、実際、“自我”は“牺牲”の主語あるいは“牺牲”の目的語前置と見るべきであろう。

ア）連用修飾語として用いられる内容語（下線部を参照）

(39)　红旗插上主峰，英雄壮烈**牺牲**。

（《戏剧—综合的美学工程》戴平、1988年、上海人民出版社）

(40)　不久，孙玉成到朝鲜去参加抗美援朝的战争，在战场上英勇**牺牲**了。

（《较量》李良杰、俞云泉、1974年、上海人民出版社）

イ）連体修飾語として用いられる内容語（下線部を参照）

(41)　伟大的**牺牲**啊！

（《当南京被虐杀的时候》汝尚、1990年、上海文艺出版社）

(42)　“甘蔗没有两头甜，我们应当作出必要的**牺牲**！”

（《“龙江风格”万古常青》丁学雷、1972年、红旗杂志社）

また、見つかった「犠牲」の用例2449件をさらに統計分析し、「犠牲」と結びつく、かつ、修飾語として用いられる内容語を表 2 にまとめた。

表 2 から分かるように、内容語は修飾語として用いられる場合、文成分で連体修飾語としてしか使わない。例えば（下線部を参照）、

(43)　どんな**犠牲**を払っても観客の位置に止まりたいと考えた。

（『脳を鍛える』立花隆、2000年、新潮社）

(44)　だんまり戦術はいちおうの効果をあげたのだが、それにしても大きな**犠牲**もはらわなければならなかった。

表2　「犠牲」と結びつく、かつ、修飾語として用いられる内容語

見出し語	件数	比率	見出し語	件数	比率
どんな「犠牲」	250	10.21％	多大な「犠牲」	11	0.45％
大きな「犠牲」	44	1.80％	尊い「犠牲」	9	0.37％

（『おじさんは原始人だった』大原興三郎、1987年、偕成社）

(45)　幕末には、親たちは多大な**犠牲**を払っても、子供を寺子屋に通わせた。（『鳩ヶ谷歴史往来』平野清、2003年、文芸社）

(46)　観光客の脚下には、この城壁を築いた人びとの血と汗との尊い**犠牲**のあることを知ると、遊子の心は、悲しさに打たれて足の運びも重くなるはずである。（『女たちの中国』李家正文、1987年、東方書店）

比較すれば分かるように、修飾語として用いられる内容語は“牺牲”を修飾する場合、連用修飾語としても連体修飾語としても用いられるのに対し、「犠牲」を修飾する場合、連体修飾語としてしか使わない。これは、“牺牲”は動詞として使えるだけでなく、名詞化もできるのに対し、「犠牲」は名詞としてしか使わないからである。内容語は動詞を修飾する場合、連用修飾語として使い、名詞（あるいは名詞化した動詞）を修飾する場合、連体修飾語として使うのである。

3.3　含蓄的特徴

国広哲弥（1982）によると、語の含蓄的特徴は「文体的特徴」「文化的特徴」「喚情的特徴」から構成される。本稿では、“牺牲”と「犠牲」の「喚情的特徴」のみを対比分析することにし、その他の特徴の比較研究は今後の課題としておく。「喚情的特徴」は中国語でいう“感情色彩”（感情的色彩）に当たり、中国語の習慣により“感情色彩”は“褒义”（プラスイメージ）、“贬义”（マイナスイメージ）、“中性”（中性）に細分化できる。

“牺牲”の三つの語義区分では、区分②“为正义舍弃自己的生命”は“死亡”、“过世”（他界）、“死”より格調が高く、肯定と賞賛といった語気も含んでいる。すなわち、このような「命を犠牲にすること」は賞賛されるべき

もの、後世に受け継がれるべきものとして考えられる。表 1 のように、“牺牲”は自然に“壮烈”“英勇”“重大”などのような、賞賛または肯定を表す語と結びついて使うわけである。

また、《现代汉语规范词典》第二版では、見出し語の“赴死”の解説には、“牺牲”の語義区分②が褒め言葉（中国語でいう“褒义词”）であるという記述がある。次の下線部のようである。

“赴死” 动为了某种目的死去◇为了国家，他慷慨～。跟“牺牲”②不同。“赴死”是中性词；“牺牲”②是褒义词。

（《现代汉语规范词典》第二版 p. 412）

実例を見てみよう。

(47) 我们高棉人怀着极其崇敬、钦佩和感激的心情，对于在战场上壮烈**牺牲**的越南和老挝的男女英雄们表示衰悼。（《解放军报》1971年 3 月28日）

(48) 中华民族无数优秀儿女，在这一大屠杀中英勇**牺牲**，中国共产党的许多领导干部如陈延年、赵世炎、恽代英、罗亦农、向警予、澎湃等在这个时期先后慷慨就义。

（《新编中国现代史》陈永阶、1987年、江西人民出版社）

(49) 我军也付出了重大**牺牲**。

（《皖南事变本末》陈枫、1984年、安徽人民出版社）

以上の例から分かるように、もしある人間の死は“为正义舍弃自己的生命”のものでなければ、“牺牲”を使えない。例えば、A が溺れて、通行人 B が救助に水に飛び込んだ結果、A も B も死んだとする。

この場合に以下の言い方があり得る。（括弧に正誤を記す）

㈠ A 淹死了。（正）

㈡ A 牺牲了。（誤）

㈢ B 牺牲了。（正）

㈣ B 淹死了。（正）

㈢と㈣では、どれも B が死んだという事実が伝わるが、㈢のほうが付加語義が読み取れる。すなわち、B の死は“为了正义的目的”（人助けのため）のものである。

一方、「犠牲」の語義区分②「天災・人災などのために死んだり傷ついたりすること」は災害に遭って死ぬことを指し、正義のために命を捨てることではない。ゆえに、ポジティブやネガティブといった感情的色彩が読み取れることはなく、中性と見てよかろう。例えば、

(50)　この託児所は原爆で倒壊し，大勢の**犠牲**を出しています。

（『鳩の使いの旅』黒川万千代、1988年、新日本出版社）

(51)　六千万人の**犠牲**を出して戦うだけの価値が、この戦争に果たしてあるかどうか？　（『小説太平洋戦争』山岡荘八、1987年、講談社）

(50) は天災で、(51) は人災である。実例からはただ災害に遭って死んだという事実しか読み取れない。つまり、この場合の「犠牲」はポジティブやネガティブといった付加語義がないのである。

４．まとめ

本稿は先行研究を踏まえて語義的特徴、文法的特徴、含蓄的特徴などの視点から、中国語の“牺牲”と日本語の「犠牲」とを対比分析してみた。当然、語義的特徴には、文法的特徴と含蓄的特徴がある程度含まれており、また、文法的特徴にも含蓄的特徴がある程度映っている。この三つの特徴は切り離すことはできない。

語義的特徴においては、“牺牲”にも「犠牲」にも“古代为祭祀而宰杀的牲畜”及び“付出代价或受到损害”の語義がある。異なるところは、「死亡」という語義を使う場合、“牺牲”は“为正义舍弃自己的生命”を意味するのに対し、「犠牲」は“遭遇天灾人祸而伤亡”を意味する。

文法的特徴においては、「犠牲」は名詞としてしか使わない。しかし、“牺牲”は名詞（語義区分①）としても動詞（語義区分②③）としても使える。文成分では、二者はどれも主語、述語、目的語、連体修飾語として用いられる。異なるところは、「犠牲」は補語として使うことが多い[4)]。コロケーショ

4）注３）参照。

ンでは、コーパスによる統計から分かるように、“牺牲”と結びつく、かつ、主語として用いられる内容語は人間あるいは団体が多い。これに対し、「犠牲」と結びつく、かつ、主語として用いられる内容語は人間、団体も多ければ、災難などもある。また、二者と結びつく、かつ、目的語として用いられる内容語はほぼ同じである。さらに、修飾語として用いられる内容語は、“牺牲”を修飾する場合に連用修飾語としても連体修飾語としても用いられるのに対し、「犠牲」を修飾する場合には連体修飾語としてしか用いられない。これは、“牺牲”は動詞としても名詞（名詞化）としても使えるのに対し、「犠牲」は名詞としてしか使えないからである。

含蓄的特徴（感情的色彩）においては、“牺牲”は褒め言葉であり、賞賛や肯定といった語気も含んでおり、ポジティブなものや正義な事態に用いられる。これに対し、「犠牲」は中性語であり、賞賛や肯定といった語気を含んでおらず、災難などにおける「死亡」という意に用いられる。従って、“牺牲”は「犠牲」よりポジティブで勇敢な要素を多く含んでいると言えよう。

参考文献

大河内康憲（1992）「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集』下［M］，くろしお出版
国広哲弥（1982）『意味論の方法』［M］，大修館書店
宮島達夫（1993）「日中同形語の文体差」［J］，『阪大日本語研究』1993年第 5 号，pp. 1–18
秦礼君（2016）《日漢比較語彙》［M］，中国科学技術大学出版社
翟東娜（2000）《浅析漢日同形語的褒貶色彩社会文化因素》［J］，《日語学習与研究》2000年第 2 期，pp. 32–35

呉夫迎　Wu Fuying　西安交通大学城市学院専任教師　専門：日本語教育・翻訳実践・中日語彙研究